**ドミニカ共和国内政・外交・経済（２０１４年１月）**

１．内政

1. 政党の動き

ＰＬＤ（往電第５４号）

　２６日，ドミニカ解放党（PLD）の中央委員会新委員２２５名が宣誓を行った。新委員選出選挙は，第８回ＰＬＤ通常委員会において実施され，新委員を含めた中央委員会委員は合計６２５名となった。当地主要新聞は，メディーナ大統領は党内において確たる地位を築いており，大統領を１２年間勤めたフェルナンデスPLD党首と勢力が均衡している旨報じた。

ＰＲＤ

　８日，選挙運営委員会は，１月３０日から２月１５日まで党新役員選挙の候補者受付を行い，２月２３日から３月２３日まで地方役員選挙，４月６日に全国及び在外役員選挙，７月２７日に党幹部選挙を実施し，２０１４年８月１７日に宣誓式を行う旨発表した。１月中も、バルガス・ドミニカ革命党(PRD)党首派とメヒーア元大統領派の対立は継続した。

ＰＲＳＣ

　２６日，第９回キリスト教社会改革党(PRSC)通常総会が開催され，フェデリコ・アントゥン・バジェ氏がモラレス・トロンコソ氏に替わり新党首に選出された。バジェ新党首は，国営住宅・生産強化銀行(BNV)の会頭でもある。

（２）モラレス外務大臣の職務復帰（往電第４８号）

２２日，外務省は，昨年９月より白血病のため病気療養で職務を離れていたモラレス外務大臣が職務復帰した旨発表した。

（３）国家開発戦略2010-2030

ア．教育協定

１４日，ヌニェス経済社会協議会(CES)議長は，２月に教育協定の暫定案を提出する旨発表し，政権・政党に関係なく同教育協定の期限を２０３０年まで延長する必要性を説いた。

イ．電力協定

２８日，ヌニェスCES議長は，国の電力部門が直面している課題の根本的な解決策を模索する電力協定に関する議論を３月に開始する旨発表した。ビチャーラ・ドミニカ電力公社副総裁は，既に，同電力協定のために様々なセクターから提案を受けている旨述べた。国家開発戦略2010-2030の３大協定の１つである電力協定は，政治・経済・社会分野代表３者によって署名される予定。

（４）国会の動き

　１３日，２０１３年８月１６日から開会されていた第２期通常国会が閉会した。次期国会は，２月２７日から８月１６日までの１５０日の会期で開会される予定。

（５）抗議

ア．８日，ドミニカ小売業者連合(FDC)は，シバオ地域（北東部）において基礎食料品の付加価値税(ITBIS)の増税（８％から１１％）及び年間売上３千万ペソを超える商店に対して会計用プリンター設置を義務づける法律に抗議をするため商店閉鎖のストライキを開始した。ストは東南部にも広まり，FDCは２月５日・６日に全国規模のストを計画している。

イ．１５日，首都圏のビジャ・メジャ地区において住民が道路修繕を求めて抗議活動し，住民と警察の間で銃弾や催涙弾が飛び交う事態に至った。

ウ．２９日，サントドミンゴのカポティージョ地区（貧困街）において麻薬取締局(DNCD)の活動に抗議する若者グループを警官隊が鎮圧した。

（６）治安関係

ア．２日，サントドミンゴ市内のレストラン「Red Grill」において，食事を終えて店から出てきたスイス人男性が３人組の強盗に殺害にされた。被害者は店近くの銀行で大金（１万米ドル）を引き出しており，尾行されていたと推測される。

イ．３日，刑事訴訟法の起草に参加したオリバレス博士は，当国において麻薬取引により年間３０億～４０億米ドルが資金洗浄されているものの，関係当局は調査をしていないとして軍・警察，検察を批判した。

ウ．６日，東サントドミンゴにおいて，バイクに乗った２人組が強盗目的でタクシー運転手に発砲したところ，車両に引火し運転手が焼死する事件が起こった。

エ．８日，首都郊外の観光地であるボカ・チカ地区のホテル・ハミルトンの客室において，イタリア人観光客カップルが刃物で襲われた。２人はサントドミンゴ市内の病院へ搬送された。

オ．１０日，カストロ国家警察長官は，治安状況に関して懸念を表明。カストロ氏が長官に就任してから６ヶ月程度で合計１万５千人以上を逮捕したが，驚くべきスピードで犯罪者が釈放され再犯している旨述べた。なお９日，治安審議会に出席したドミンゲス検事総長も同様の懸念を表明した。

カ．１４日，３，８００万ペソを輸送中のカリベ・ツアー(Caribe Tours)社のバスが，サントドミンゴ市内のドゥアルテ高速道路を走行中，軍人の格好をした武装グループに襲われた。２０日，３名の警察官が関与していた旨発表された。

キ．１５日，カストロ国家警察長官は，違法入国を斡旋していたグループを壊滅することに成功したと発表した。移民局検査官や軍人を含む６人が逮捕された。

ク．１８日，西サントドミンゴのドゥアルテ高速道路において，アフリカ出身の男子大学生（２７歳）が乗り合いタクシーに乗っていたところ，同乗者の男達に金品を奪われそうになり抵抗したため，発砲され車外に放り出された。被害者は近くの病院で死亡した。

ケ．２２日，北部プエルト･プラタ県ソスア地区において，全身に強打された痕が残されたドイツ人男性（４８）の遺体が自宅寝室のベッド下で発見された。被害者は，１８日から行方不明となっていた。ドミニカ（共）人３名及び米国人女性２名が逮捕された。

（７）緊急電話網９１１プロジェクト

１６日，モンタルボ大統領府大臣は，緊急電話網９１１プロジェクト用にパトロール用車両３００台をファドゥル内務警察大臣に引き渡した。

２．外交

1. メディーナ大統領の外遊

ア．２７日，ホンジュラスを訪問し，フアン・エルナンデス・ホンジュラス大統領の就任式に出席した。

イ．２８日－２９日，キューバを訪問し，第２回ラ米カリブ諸国共同体（ＣＥＬＡＣ）首脳会合に出席した。また，同会合の枠組みで，モラレス・ボリビア大統領とバイ会談を行い，本年６月１４日－１５日にボリビア・サンタクルスにて開催される，Ｇ７７＋中国首脳会合への招待を受けた。

1. ドミニカ（共）・ハイチ閣僚級会合

　７日，ファナ・メンデス（ハイチ領）において，ドミニカ（共）・ハイチ閣僚級委員会会合が行われ，ドミニカ（共）側からはモンタルボ大統領府大臣，ハイチ側からはラモット・ハイチ首相等が出席した。本会合では主に両国の移民問題について話し合われ，ドミニカ（共）側は，自国政府の移民政策，国籍付与に関する規則を決定する主権を認めるよう要請，ハイチ側はハイチ人移民の基本的人権を保証するよう要請した他，ドミニカ（共）側は，「違法移民状態にある外国人正常化計画」で網羅されない事例を解決すべく追加規則を策定中である旨説明した。

1. 米国による経済協力

１５日，モンタス経済企画開発大臣とブリュースター当地米国大使は，米国国際開発庁（ＵＳＡＩＤ）の戦略的枠組み援助として，犯罪対策，気候変動，エイズ予防等の分野へ計１億８,４９０万ドルの支援を行う合意文書に署名した。

３．経済

1. 国内の経済活動

１６日，バルデス中央銀行総裁は，２０１３年のドミニカ（共）経済動向を発表し

た。主な点は下記の通り（往電第４３号）。

ア．２０１３年の経済成長率は４．１％。右成長に貢献したセクターは，鉱業（１５１％），金融仲介・保険業（１０．５％），建設業（７．３％），観光業（６．３％），農業・牧畜業（４．４％），フリーゾーン（２．５％）等。２０１４年の経済成長率は，４．５％～５．０％を見込む。

イ．２０１３年のインフレ率は３．８８％、２０１４年のインフレ率は４．５％±１％を予測。

ウ．２０１３年下半期の経済回復は，主に農業・牧畜業やサービス業において，新たに７万人の雇用を創出した。失業率は、７％（２０１３年１０月時点）。

エ．外貨準備高は４３億８，６５０万米ドルに達した。経常収支赤字はGDP比４．５％，前年比－２．２％の減少。右は輸出の増加（５．８％），家族送金の増加（３．３％），輸入の減少（－４。９％）に因る。

オ．海外直接投資はGDP比３．４％に相当する２０億７，８６０万米ドルであった。

カ．１２月３１日の対ドル売レートは４２．７９ペソ/ドル。前年比５．６％のペソ安。

キ．２３日，リサルド大蔵大臣は，２０１３年財政赤字はGDP比２．７７％（７００億２，５２０万ペソ）であり，目標２．８％を下回った旨報告した。３０日，ワーナーIMFラテンアメリカ・カリブ海地域担当エコノミストは、IMF本部において，２０１３年ドミニカ（共）は経常収支赤字を大幅に削減させ財政強化を果たしたことから，２０１４年の更なる成長を期待する旨発言した。

ク．１５日，バルデス中央銀行総裁は，ドミニカ（共）はIMFの第六版マニュアルに従い２０１４年より国際収支統計を作成する旨発言した。チリ，グアテマラ，ニカラグアに次いでラテンアメリカ地域で４カ国目の導入となる。

（２）電力

ア．９日，カルメン・ドミニカ電力公社(CDEEE)電力損失・回復局長は，配電会社による徴収額は２０１３年に７％増，昨年比４０億ペソ増加し，顧客数１５万人増となった旨発表した。また，顧客のリアルタイムの電力消費量や計測器の不正を防ぐための無線計測システムの普及も順調に進んでいる旨述べた。現在，無線計測器を利用している顧客は２４万人，２０１６年までに５０万人まで増加させることを目標とする。

イ．１４日，ビチャーラCDEEE副総裁は，電力問題の解決には３０億米ドル以上投資する必要があり，うち，１９億５，１００万米ドルは，ペラビア県バニ市（首都西部）における石炭火力発電所２機の建設，１０億米ドルは配電会社への投資，５億米ドルは電線網の改善に使用されている旨発表した。事業が計画通り進めば，５，６年で国の電力システムは安定する旨予測し，また，CDEEEが２０１２年に実施した電力需要に関する調査によると，７５％～８５％の電力供給を確保するためには６００メガワットを発電する施設が必要であり，将来的には更に１，０００メガワット発電する施設が必要となる旨述べた。

ウ．１９日，モケテ・一般企業連盟(UNE)会長は，ビチャーラCDEEE副総裁の２０１４年電力赤字は２０１３年とほぼ同額の１４億米ドルになるとの発表に対し懸念を表明，現在年間３０％にも上る損失を２０１４年に僅か３％削減するという計画を脆弱すぎると非難した。

（３）観光

ア．２０日，中央銀行が発表した観光報告書によると，２０１３年（１月～１２月）にドミニカ（共）を訪れた観光客は前年比２．８％増（１２万７，１６４人増）の４６８万９，７７０人。うち，非居住外国人は前年比３．６％増の４０６万４，７５４人。プンタカナ（東部観光地）空港は依然としてドミニカ（共）最大の空の玄関（６３．６％）であり，当国訪問の観光客の年齢層は比較的若く，２１歳～４９歳が６４％を占める。２０１３年の国別観光客増加数は、米国人（１４万３，９２３人増），ドイツ人（２万９，７００人増），ロシア人（２万８０８人増），チリ人（１万３，１２０人増），ブラジル人（１万１，３７７人増），イギリス人（１万２２４人増）となった。

イ．２３日，スペインのマドリッドにおいて開催された第３４回国際観光市(FITUR 2014)において，当国観光業の主要投資家であるピニェログループ（スペイン）のピニェロ会長は，今年中にラ･ロマーナ（東部），プンタカナ（東部），サマナ（東北部）に４つのホテルを開業する旨発表した。同グループの投資総額は年５～６千万米ドルに上る。ガルシア観光大臣は，首都サントドミンゴがショッピング，歴史観光，更には国際イベントもできる場所として相応しくなるようコンベンション･センターを建設する旨発表した。

ウ．１４日，ストゥルラ・ロマーナ中央協力組合広報長は，首都の老舗ホテルであるホテル・サントドミンゴを改装のため一時閉館する旨発表した。

エ．２２日，駐ロシア・ペレス・ドミニカ（共）大使は，在ロシア・ドミニカ（共）大使館が設立されてから僅か４年間で観光客数は２万６千人から２０１３年には１７万人になり，イタリア，スペイン，イギリス等を上回った旨発言した。両国を結ぶ直行便は毎日２便就航しており（Aeroflot社及びTransaéreo社），観光客増加は，プエルト･プラタ（北部），サマナ（北東部），ババロ（東部）等におけるホテルや不動産等への投資拡大をもたらした。当国はロシアにバナナ，コーヒー，葉巻，ラム酒等を輸出している（往電第５５号）。

オ．１５日，ロハス環境大臣は，「２０１４年鯨観察シーズン」の開始を発表。鯨は４月まで観察可能で今年は３万５千人の観光客を見込んでいる。

（４）国際関係

ア．１４日，駐ドミニカ（共）Ping-Fu Hou台湾大使は，台湾企業が，サンティアゴ県（北部）のタンボリル・フリーゾーンパークに３，５００万米ドルを投資してスポーツシューズの製造工場を建設し，２月あるいは３月から生産を始める旨，また，本事業は，台湾企業によるドミニカ共和国への初めての大型投資であり，１，２００名の雇用を創出する予定である旨発表した（往電第３７号）。

イ．２２日，カナダ・モントリオール州の１３人の投資家グループが，ペラルタ大統領府官房大臣と会談し，再生エネルギー，交通機関，建設分野における当国への投資に高い関心を示した。

ウ．３０日，ドミニカ（共）及びハイチの農業企業家がドミニカ農業企業委員会(JAD)本部に集結し，両国の生産強化・相互協力について協議した。また，ＥＵの協力によるココナッツ種巻き共同プロジェクト実施についても協議された。

（５）国際機関

ア．１４日，ドミニカ共和国が初めてSICA議長国としてSICA事務会合を当国外務省において開催し，２０１４年上半期の議題を検討した。社会・経済統合，組織強化，民主主義の保障，自然災害対応に関して協議された。マルティネス事務局長は，SICA加盟国が環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)を憂慮していること，特に縫製業が受ける経済的損失について憂慮していることを米国に伝えた旨発言した（往電第３０号）。また，６月２７日，当国でSICA首脳会合が開催されることも決定された（往電第３６号）。

イ．２３日，ドイツ政府の協力のもと，国の二酸化炭素排出量の約１５％を占めるセメント産業から排出される二酸化炭素及び廃棄物の削減計画を開始。本計画は，国家開発戦略“気候変動対策と両立する経済開発計画”の一部であり，ラミレス気候変動国家委員会副委員長は，当国は２０３０年までに温室効果ガスを２５％削減する義務がある旨発言した。

ウ．３０日，モンタス経済企画開発大臣とモンテアレグレ米州開発銀行(IDB)当地代表は，中小企業の輸出促進に合意し署名した。本計画に６４万米ドル投資され，うち５３万米ドルは無償資金協力。期間は１年３ヶ月，市場調査や中小企業の課題分析支援，中小企業への直接支援が行われる。

エ．３０日，フェルナンデス前大統領は，グアテマラの中米議会(Parlacen)本部において，Parlacenの議員として宣誓を行った。

（６）対米貿易赤字の増加

１６日，カスティージョ商工大臣は，自由貿易協定DR-CAFTAによると，ドミニカ（共）の対米貿易赤字額は２０１３年には１０億米ドル減となり，大幅に改善した旨発表した。一方，米国の調査機関(Census Bureau)のデータは右発表に反しており，２０１３年１１月にはドミニカ（共）の対米貿易赤字は増加し，マイナス２６％となっている。貿易統計は，１０５億９，５５０億米ドル（米国輸出額：６６億８，４５０億米ドル，ドミニカ（共）輸出額：３９億１，１００億米ドル）。２０１２年，当国は米国に４３億６，５００万米ドル輸出し，米国から６９億７，３７０万米ドル輸入，ドミニカ（共）は２６億８７０万米ドルの赤字であった。

（７）葉巻

ア．１３日，ヨーロッパ誌“Cigar Journal”において，「２０１３年最も素晴らしい葉巻ベスト２５」に当国産葉巻が１０品選出された。以下，ニカラグア産８品，キューバ産４品，ホンジュラス産３品と続く。

イ．１０日，カラバジョ国立葉巻協会(Intabaco)会長が，中国と台湾が当国産葉巻に関心を示しており，葉巻の生産過程を学習するために中国の代表団，台湾やヨーロッパの企業家が訪問した旨発表した。

（了）